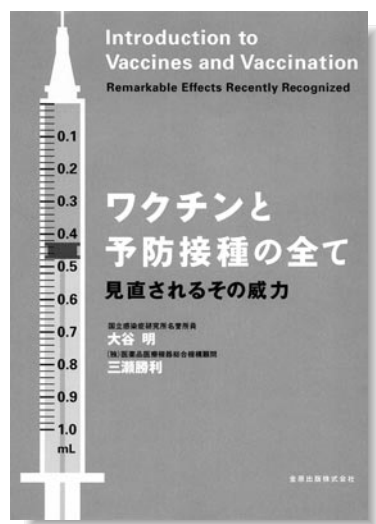


B O O K



『ワクチンと予防接種の全て —見直されるその威力—』

著者

国立感染症研究所名誉所員

大谷 明

独立行政法人医薬品医療機器総合機構顧問 三瀬勝利

本書は4部構成で、第1部はワクチンの概論を述べ、第2部がワクチンの各論、第3部が接種時の注意と法令、第4部が予防接種に関するQ&Aとなっている。本書のもっとも中心をなすのは第2部のワクチンの各論であり、個々のワクチンに関する記載は新型インフルエンザや子宮頸がん予防ワクチンまで含めた up to date な内容をふんだんに取り入れ、ワクチンを理解するうえでの意義、歴史まで網羅したものを明確に示している。個々のワクチン接種にあたって実地医家にとってありがたい書物のひとつとなるであろう。特に予防接種に関するQ&Aは誰もが疑問に思うことを選択された内容となっている。また、どのページにも写真や図が大きく載っており、大変見やすくなっている。ワクチン行政は年々改定され、本年度も新型インフルエンザのワクチンが開始されることとなっている。本書はこういった執筆時点ではまったく実施されていないが今後行われる可能性のある多くのワクチンにも言及されており、出版されては古くなる書物とは一線を画するものである。

また、本書における特徴の一つにコラムがある。このコラムがあることで、読み物としての要素が多く、ワクチンの啓蒙書や解説書という固い印象はうすれて読者を飽きさせない書となっている。コラムの一端を紹介すると、「副作用と副反応」、「液性免疫と細胞性免疫」、「粟粒結核」「マクロファージと好中球」といった医学用語が図を多く用いて解説されている。このことはワクチンを専門に扱う人だけを本書の読者対象としているわけではなく、より幅広い層に読んでいただきたいという著者の意気込みであると感じる。また、その他のコラムでは「731部隊」や「腸チフス・メアリー」、「オウム真理教によるバイオテロ」など新旧の話題があり、コラムをよむと、著者の生い立ちをほうふつさせる。著者の大谷先生は国立感染症研究所に長い間勤務され、本邦におけるワクチン医学の第一人者の一人であり、我が国は先進国であるにもかかわらずワクチン後進国であることを嘆いていたと聞く。本書の完成前に急逝されたのは非常に残念なことである。

東京医科大学 小児科

河島尚志

発行：金原出版株式会社 〒113-8687 東京都文京区湯島 2-31-14

電話 編集 03-3811-7162 営業 03-3811-7184 定価：本体 4,500 円＋税